



みんなの がっこう の どうぶつ

2014年1月上旬
第1号

発行責任者：公益社団法人 栃木県獣医師会 南支部 小山班 学校飼育動物委員 すずき しげゆき
☎0285(41)0323 fax0285(41)0322
電子メール suzuki@brace-ah.jp



この号の内容

- 1 はじめに
- 2 根拠に基づく動物飼育
はじめに
- 3 飼育舎を改造する
冬の対策

1. はじめに

私たち獣医師は、国語や算数を教えることはできません。それでも私たち獣医師は、生徒さんのためにできる事はないかと思っています。

私たち獣医師は、“命”について知っています。また、“人間の側の考え”と“動物の側の考え”の両方も知っています。ですから、私たち獣医師は、その事についてお話することや、ご質問に応えることもできます。

私たち獣医師は、生徒さんのためになりたいと望んでいます。困ったことや、問題が起きたらいつでも相談してください。

少しでもお役にたてばと、これからニュースレターを発行していきます。

2. 根拠に基づく動物飼育 はじめに

近年、動物との関わりが人間に与える影響に関する研究や実績が多く報告され、動物との関わりが有用性が認知されるようになりました。動物との関わりは、実社会では老人介護施設での動物との関わりや、医学的なセラピー、盲導犬、災害救助犬などがもたらす癒し効果や安心効果として取り入れられています。

また、かつては番犬やネズミ取り猫としての存在であった動物たちが、ペットという仕事をさせない飼育の対象になり、今やペットという認識ではなく、「家族の一員」として共に生活をする存在という認識になりました。

学校での動物飼育も、動物飼育の歴史的背景をもとに、飼育体験や理科の観察の教材としての飼育目的が主流でしたが、今やそれだけに留まらず、「命」や「慈しみ」、「責任」を知るための飼育へと目的が変化してきています。

平成16年に設立された全国学校飼育動物研究会では、毎年開催される年次大会で数々の研究報告やケース報告がされています。それらの報告から読み取れることは、具体的に目標を設定し、課題を設け、計画的に実行されることで、期待する効果を最大限に引き出すことができることです。

次号より具体的なケースを交え、根拠を示しながら、動物と児童たちの関わり方をご紹介します。

参考：「全国学校飼育動物研究会」

<http://www.vets.ne.jp/~school/pets/siikukenyukai.htm>

動物飼育の目的は、「命」や「慈しみ」、「責任」を知るための飼育へと変化している。

目標を設定し、課題を設け、計画的に実行されることで、期待する効果を最大限に引き出せる。

3. 飼育舎を改造する 冬の対策

弱っている動物は、夜間は職員室などの室内で過ごさせ、湯たんぽを入れて大きな布で覆う。

巣箱を作って設置してあげると良いでしょう。

飼育舎は、風よけの板や透明ビニールシートで囲うと良いでしょう。



日本にいる野生ではないウサギは、穴ウサギを改良して作られた品種です。ですから、本能的に穴を掘って生活する習性を持っています。巣穴は夏の暑さや冬の寒さから避難する場所としての役目を持っています。

冬場は、地面に掘った巣穴を利用することも一案ではありますが、巣穴は病気や老齢のウサギが潜り込んでしまい、状態の観察や看護、治療が適切にできず、死亡するまで発見できない危険もあります。弱った動物は、夏よりも冬の方が生命に関わることが多いです。

弱っているウサギは、夜間は職員室などの室内で過ごさせ、中に湯たんぽを入れて、大きな布でケージごと覆うようにすると適度な温度を維持できるようです。

巣穴を塞いで代わりに巣箱を設置してあげると良いでしょう。巣箱の中には、夜間は湯たんぽを入れてあげると更に良いでしょう。

飼育舎に於いては、風よけの板で飼育舎を囲ったり、透明ビニールシートで囲っても良いでしょう。風よけの板は地面から1m位、透明ビニールシートは地面から2m位の高さがあれば十分でしょう。

参考:「学校飼育動物を考えるページ」

<http://www.vets.ne.jp/-school/pets/index.html>



巣箱は、緊急避難的に段ボールで作っても良いでしょう。

壊れても、すぐに新しいものに作り変えられます。



ニワトリやインコなどの鳥類は、病気などで弱ると一気に落鳥（死亡）します。特に冬場は落鳥の危険が高い時期です。あまり動かずにじっとしていることが多かったり、羽毛を膨らませていたりする場合は、弱っている可能性がありますので、保温をしてあげて心掛けてください。

寒さ除けとして、飼育舎を農業用の透明ビニールシートで囲うことで保温効果が得られるでしょう。また、巣箱を作って置いてあげるのもよいでしょう。

鳥類の冬場の対策として、野鳥からの鳥の感染症を防ぐ必要があります。冬場は北方から渡り鳥が飛来します。また、餌の少ない冬場に飼育舎からこぼれた餌を狙ってスズメやカラスなども集まってきます。水を介して感染が広がりますので、飼育している鳥の生活水への接触をさせないことが大切です。それには、飼育舎に侵入させないことです。

飼育舎の金網の目が2 cm以下であるならば野鳥の侵入の心配はありません。金網の目が2 cm以上の場合には、飼育舎の周りに新たに目が2 cmの金網を重ねておくと良いでしょう。

それは知らなかった！

ウサギには、穴ウサギと野ウサギがあるそうです。二つは遺伝的には遠く離れた関係で、交雑できないほど遠い関係のようです。

穴ウサギは地面に巣穴を掘り、野ウサギは巣穴を掘らないようです。英語でも違いがあり、穴ウサギ⇒ラビット (Rabbit)、野ウサギ⇒ヘア (Hare) と、区別されています。

日本の在来種の野ウサギは、Hare (ヘア) です。



公益社団法人 栃木県獣医師会
Tochigi Veterinary Medical Association

公益社団法人 栃木県獣医師会
学校飼育動物委員会

〒320-0032
栃木県宇都宮市昭和1-1-23

☎0286(22)7793 Fax0286(21)9660

http://www.tochigi-vet.or.jp/activity/chairman_02.html